



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0856 横浜市神奈川区三ツ沢上町6-8-201 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

神奈川自治体学校 女性行政分科会報告

11月12日(日)開催の神奈川自治体学校で、午後から女性行政分科会に参加した。

公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)の共同代表を務める渡辺百合子さんが、

「会計年度任用職員制度をジェンダー視点で考える」と題して、次の3点を話した。

- ①はむねっと立ち上げ経緯と活動
- ②男女共同参画白書からみた格差
- ③会計年度任用職員制度をジェンダー視点で考える

以下、主に③について報告する。公務非正規労働者数を地方自治体でみると、2022年地方公務員正規2,803,664人、非正規1,125,746人。非正規のうち会計年度任用職員は622,306人(うち女性76.6%)。非正規公務員の8割が女性である。国家公務員でも、非正規に占める女性の割合は同じになっている。

2022年に実施したはむねっと・自治労連の実態調査では、非正規公務員の賃金は、2021年度年収200万円未満が52%。多くの女性たちが雇用不安、低賃金で働いている。

はむねっとアンケートから当事者の声をあげると、人件費を削るため、雇用の調整弁となっている。週20時間未満まで労働時間を減らされ、自立した生活は出来ない。1年雇用を繰り返している。仕事は補助的な仕事、ケア労働が多い。長く働いても、専門性は評価されない。このような任用職員の状態では、公共サービスは充実しない等。

そして、働く人の尊厳が無ければ、質の良い公共サービスは提供出来ない。地方自治体は模範的使用者として、雇用安定、ジェンダー平等に務めるべきである。正規と非正規の分断を起こしている格差を是正するといった今後の取り組みについても話があった。

図書館問題研究会の川越峰子さんは、公共図書館の状況を報告した。公共図書館においては、正規専任職員の数が減らされている。

一方で非常勤・臨時・委託派遣の職員が増加。

川越さんたちは、「図書館非正規職員の待遇改善」や「公共図書館に司書の必置を求める」活動を行っている。

上記2件の報告後、会場の参加者からも報告が行われた。

県職労連のAさん、一緒に働いている職場の非正規職員の待遇について、日頃から気になっているがなかなか声が上げられない状況。

しかし、非正規職員が評価面接の対象になっていないのはおかしいと上司に話したところ、非正規の評価もきちんと行う必要があるとされ、全員が面接を受けた。声を上げる事は大切であると思った。

横浜市従の青木由美子さんは、会計年度任用職員、学校の用務員として働いている。仕事はとても楽しい。子どもたちの安全と安心を守ることに誇りを持って働いている。横浜市は3年雇用で区切るのではなく、4回更新の5年雇用なので、2025年が重要な年となる。市従は正規と非正規が共に非正規職員の労働条件改善に取り組んでいる。その中で期末手当の支給を勝ち取り、賃金の遡及も交渉している。

横浜市議のみわ智恵美さんは、市では「図書館ビジョン」作成を進めている。素案に対する市民の意見募集が始まるので、是非、ご意見をいただきたい。また、現在、学校図書館500館の司書は全て任用職員になっている。これを正規の司書にして、きちんとサポート出来る体制を作ることが必要。しかし、「図書館ビジョン」に学校図書館は含まれていない。といった話があった。

会場からも多くの質問・意見が出された。

神奈川労連から、二宮町で民間を直営に戻した、箱根町でも指定管理から直営に戻したとの調査報告があった。継続する仕事は、正規雇用で行う事が求められる。

(報告:池田資子)



女性行政分科会

祖母いつもにらみきかせる炬燵かな

松尾 佐知子

奄美大島の戦跡と自衛隊基地

佐久間由美子(会員)

11月1日から4日まで奄美大島に行ってきました。

奄美大島南部の古仁屋には奄美大島要塞司令部や陸軍病院などの跡や旧陸軍弾薬庫などが残されています。

奄美大島の南に位置する加計呂麻(かけろま)島には、小説家島尾敏雄文学碑・墓碑があります。島尾敏雄は特攻隊(第十八震洋隊)の指揮官として呑之浦(のみのうら)に駐屯、45年8月13日に突撃命令を受けたが、突撃せず、終戦を迎えたといわれています。特攻用ボート「震洋」が入り江奥の格納庫に隠されていました。



特攻用ボート震洋

奄美大島南部とその南の加計呂麻島の間の大島海峡はリアス式海岸で、軍事施設を隠しやすく、高台からは監視・攻撃がしやすい地形です。安脚場(あんきゃば)戦跡公園には砲台跡の

初めて高麗博物館を訪ねて

中嶋ひとみ(会員)



8月に「関東大震災 朝鮮人 中国人虐殺から100年 今考える歴史の事実と今日の課題」という講演会を、ふらりと聞きに行った。そこで、「関東大震災における横浜の虐殺」の話を聞いた。大震災の時に、「朝鮮人が毒を井戸に投げた」などの流言で多くの朝鮮人が虐殺された、その

発火点は横浜で、最も多くの人々が虐殺されたのは横浜だったという話は衝撃的だった。そして今回、「高麗博物館で関東大震災時の朝鮮人虐殺の絵巻が展示されているそうよ」と聞いたので、高麗博物館に行ってみたくらいと思い参加した。

12月14日、私を含め3人で新大久保の高麗博物館を訪ねた。新大久保の商店街は、韓国料理店や化粧品、小物類などを売る店が所狭しと立ち並び、平日にもかかわらず若者から中高年の女性で大賑わいだった。渡辺泰子さんから紹介していただいた朝鮮料理店でまずランチをいただいた。キムチやサラダ、ナムルのサービスが4~5品ついていて、一人1000円ちょっとでおいしい料理をお腹いっぱいいただき大満足。その後、高麗博物館を訪ねた。

ほか、兵舎、弾薬庫、探照灯台跡などがあります。

陸上自衛隊奄美駐屯地は南部の瀬戸内分屯地とともに2019年3月に開設しました。奄美駐屯地は約55万㎡、中距離地对空誘導ミサイル部隊など約350人を配備。敷地内に、隊庁舎、厚生施設、運動施設、屋内射撃訓練場、弾薬庫などがあり、一部はまだ工事中です。開設以降、日米共同訓練が毎年行われています。

奄美大島は世界自然遺産登録予定(登録は2021年)であることから、島民が危惧したのは自然破壊・環境破壊ですが、県の環境アセス条例に満たないとして行わず、周辺環境調査にとどめています。影響軽減措置としてアマミノクロウサギの成体15羽を「区域外へ追い払った」とし、幼体の数は公表されず、犠牲になった幼体は数知れないといわれています。

馬毛島基地建設用のテトラポッドを奄美大島で製造、海沿いの埠頭のような広い敷地に、約300個の巨大なテトラポッドが立ち並んでいました。



巨大なテトラポッド

商店街の中のビルの7階に民営の高麗博物館があった。中は人でいっぱいだったが、関東大震災時の朝鮮人虐殺関連の書籍や資料がたくさん並べられ、手に取ってみることができるように展示販売されていた。「関東大震災絵巻」は、幅30センチくらいの絵巻物に水彩画で描かれており、大勢の市民や警官のような人が刀や棒を振り上げて人を刺し、暴行を加えて、血を流して倒れている人の有様が描かれていた。その時分の新聞報道や布告文書、当時を振り返る文集なども掲示されていて、この事件が偶発的に起きたものでなく、朝鮮人や社会主義者が政権に対する抵抗運動を起こさぬよう、政府側から各町村の自警団をあおるような事実経過があったことが分かった。犠牲者数も資料によりかなりの違いがあり、正確な数さえもわからぬよう隠蔽処理されてきた感じを受けた。日本が、朝鮮人を差別見下し、ひどい仕打ちをしてきた歴史があることを再認識した。

近頃はテレビをつけると、必ず韓流ドラマや韓流ポップスグループが放映されており、気軽に韓国旅行へ出かける人も多いが、第二次大戦で侵略した国の人々に日本がどのようなことをしてきたのか、知らずにいる人が多いと思う。侵略戦争の反省のもとに立って、学校教育の中できちんと加害者としてふるまった日本史を教育されてきていないのだと思う。朝鮮人に対して、過去に犯した日本の歴史をふまえたうえで、朝鮮や中国との心からの民間交流を豊かにしていきたいものだ。

君嶋ちか子がゆく²⁷ …奮闘記

アダルトビデオの実態

「黒岩知事の人権侵害を無かったことにできない女性たちの会」は、「アダルトビデオは女性差別・女性への暴力」と題する学習会を行いました。講師は大阪電気通信大学教授の中里見博さん。

●主な内容を紹介します。

＜性売買としてのAV＞

現在、殆どのAVで実際の「性交」が行われている。金銭の力で女性の身体を性的に使用する行為であり、両者の仲介者も含め、売買春に当たる。

＜性売買容認社会＞

「性交」させる売買春は、売春防止法で禁止だが、個室付き浴場の合法化により事実上黙認。

AV制作自体は、「児童ポルノ」を除き合法。「わいせつ物」に該当しなければ販売も可能。だが実態として、違法な性交が行われている。

＜AVによる主な被害＞

制作段階では、脅しや騙しにより出演や演技を強制される被害、消費段階では、AVの視聴や模倣行為を強要される被害・AVを利用した暴行脅迫などの被害が生じている。

またAVの広範な流通は、女性を性的欲望のは



け口に貶めている。

＜ポルノ小説とAV＞

刑法175条「わいせつ物頒布罪」は、ポルノ小説とAVを同列に扱っているが、文章と生身の女性に性交させる事とは決定的に異なる。

AVは「性差別・人権侵害行為」が問題であり、「表現の自由」以前の問題。

＜被害防止のために＞

制作段階では、実際の性交の禁止。流通段階では、出演者の権利侵害を伴うAVの販売差し止め。消費段階では、AV視聴や模倣行為の強要に対し刑法の適用。

●凄まじい被害例も示され、AVは制作・消費などの各場面で、社会を暴力的に煽りかつ女性蔑視を増幅させていることを実感しました。

また「日本社会で、知事の行為が人権侵害であるとの合意を得ることは、容易ではない」との講師の指摘もありました。

私たちは、黒岩氏の人格を疑わせるメールや女性へのAV押しつけを人権侵害と受け止め、そのような人物が県政の責任者であることは相応しくないと考えています。

今回の取り組みは、知事の認識にとどまらず「社会の認識を変える取り組みである」ことも痛感しました。

映画が好き

「窓ぎわのトットちゃん」

池田 資子(会員)



『窓ぎわのトットちゃん』は1981年に出版され、ベストセラーになった。黒柳徹子さんの子ども時代の体験が綴られて

いる。映画化の話は沢山あったが、今日まで実現しなかった。今回アニメーション映画になることで、若い人達が観てくれたらいいなと、徹子さんは思ったそうだ。

小学校を退学になったトットちゃんが母親と一緒に、新しい学校を訪れるところから映画は始まる。「トモエ学園」は自由ヶ丘にあり、教室は電車の車両、教室の席は自由、勉強は自分の好きな科目を選んで各自が行い、早く終われば散歩に出掛ける。優しい校長先生は子どもたちのお話を全

部聞いてくれる。トットちゃんには夢のような学校だ。

トットちゃんは小児まひの泰明君と友達になり、協力して木登りをしたり、プールで泳いだり、運動会で二人三脚をして、楽しく過ごす。しかし、第二次大戦が始まると、食べ物が無くなる。弁当は袋に入った大豆。お腹がすいて泣き出してしまうトットちゃん。泰明君と雨の中で踊る場面は空腹だけではなく、怒りもあったような気がする。バイオリンのお父さんは、軍歌を弾いて、食べ物を手に入れようとするが、やはり軍歌は弾かないと決断する。

空襲で学校は焼け落ち、自宅は建物疎開の対象となる。そして、子どもたちが疎開する日がやってくる。「いつもみんな一緒だよ」が信念の校長先生にはつらい日だ。トットちゃんは青森へ疎開する事になる。戦争で生活は一変する。そのことが、どうしても現在の状況(ウクライナやガザ)と重なる。声高ではないが、この映画は戦争反対を訴えていると思う。

青森へ向かう列車の窓には東北の自然が美しい。きっと戦争に負けることなく生きていこうと思わせるラストが心に残る。

非正規・中年シングル女性の 現状とこれから

小島八重子(会員)

10月14日(土)川崎男女共同参画センター(すくらむ21)で開催された「非正規・中年シングル女性の現状とこれから」第1回ジェンダー平等と雇用問題に参加しました。

最初は「ジェンダー平等と雇用問題」と題し金井郁さん(埼玉大学教授)のお話です。

金井さんは、日本的雇用システム＝日本の労働市場での非正規雇用とは何かというと、①直接雇用か間接雇用か②期限の定めのない雇用か期限付き雇用か③フルタイムかパートタイム雇用かの組み合わせである。要は、法律上、正規社員とは何か、非正規社員とは何かと決まっているわけではなく、企業の中でどのように呼ばれているか(呼称)が正規、非正規を決めるとのこと。非正規の呼称は、契約社員、パートタイム労働者、アルバイト、嘱託・・・など様々です。

非正規に女性が多いことから、労働政策(失業保険、パートタイム労働、男女雇用機会均等法など)が、女性を「家計補助的」なものとしており、その結果非正規雇用を低処遇化していると指摘。

ジェンダー平等で公正な「非正規雇用」にしていくには、長時間労働の規制、正社員の働き方の見直し、男女間や正規・非正規間の賃金格差是正

非正規・中高年シングル女性の 現状とこれから

ジェンダー平等と雇用問題

女性の生きづらさの原因は
生涯1億円の男女賃金格差
女性は安心して生きていけるの

後日配信あります。
申し込みは裏面に。

10月14日(土)
13:30~15:30
第1・2研修室
金井郁さん
埼玉大学教授

政策の強化、「男性稼ぎ主」モデルに依拠した社会保障・税制度の見直しなどを強調しました。

フロアからは澤田幸子さん(当会会員)が「労働相談の現場から」と題し、具体的な事例をあげ、話しました。コロナ禍の中で、中小零細企業ではたらくパートが、シフトが減らされた、残業代が支払われない実態。また、神奈川労連の自治体訪問活動の中で、公務の職場で会計年度任用職員が増大しています。その8割が女性です。自治体によっては正規職員の1.5倍から2倍を超えていると。

参加者からは、「非正規シングルの問題は、待ったなし」「女性間の断絶をやめ連帯しよう」「シングル住宅問題は深刻」「補助的な仕事でも、必要だから仕事がある」「公務の非正規で、専門職が多い」など、発言が相次ぎました。

また、すくらむ21では、非正規シングルにアンケート調査やシングル女性のための「お月さまカフェ」を毎月実施するなどのとりくみも始めています。

トピックス

▼11月20日(月)10時～県民連絡会・女性分野の 要求対県交渉が波止場会館で行われた▼

団長の田中由美子さん(新婦人神奈川県本部会長)から「2023年版のジェンダーギャップ指数で日本は146か国中125位。とりわけ女性労働者は景気の調整弁となっている。生きづらい人への対策がない。困った時に相談できる行政を」とあいさつ。

交渉は、労働、農業、健康・・・など17項目の要求に絞り行われた。

県として女性職員の管理職登用(2025年目標25%に対し18.6%)について、進まない状況への追求に対し、県は「厳しいのは把握している。男性の意識改革や育休取得を進める」との焦点のずれた発言。かながわ男女共同参画プランの主旨と統計数値をあげ、具体的な改善を求めると、「どこが問題か。各段階での男女の割合がある。女性を優遇すると矛盾が生じる」と、あたかも女性の能力に問題があるような発言に終始した。この回答からは、県としてプランに沿い女性の登用

に向け、人材育成を進めていく考えが全くないことが判明。昔に逆戻りしているのではと思わざるを得ない。

2023年3月末で会計年度任用職員の120名が任用されていない、雇止めか、との再質問に県は、「120名の内の45.5%の方の行方は承知していない」。更新については「単年度雇用だが、2回は更新できる。広く募集を行うことが望ましい。新たになりたい人もいる。平等の観点からも」と。毎年、継続雇用されるかどうかの不安を抱えている非正規の気持ちを理解しない回答に怒りが湧く。

県が女性労働実態調査をしない理由を訊ねると、県は「高額な委託費がかかるので、予算と職員の負担がかかる」と回答。女性労働者の実態を把握せず、都道府県のジェンダーギャップ指数の「経済」分野で25位の神奈川県を改善する気がないことが明らかになった。

(報告:小島八重子)